

10月8日の阿蘇山噴火に伴う降灰状況等の調査

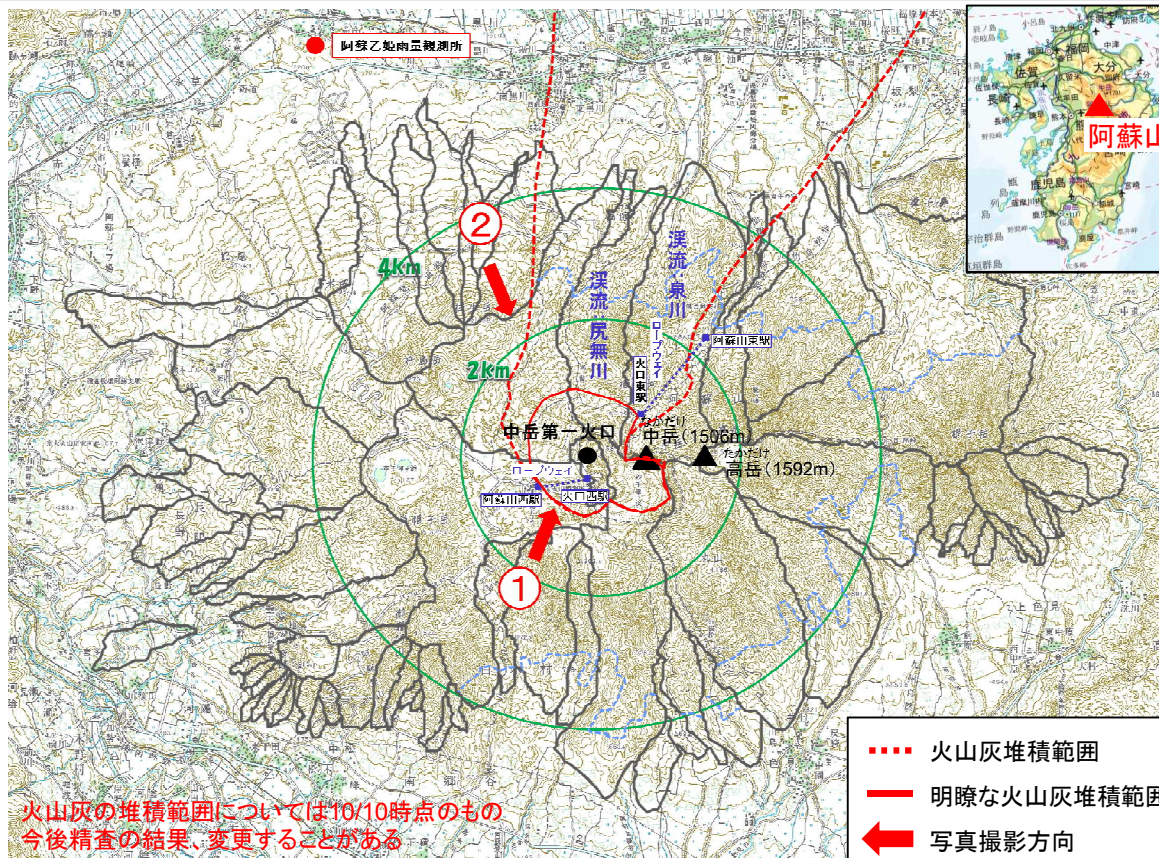
- 阿蘇山では、10月8日01時46分に爆発的噴火が発生。気象衛星では高さ11,000mの噴煙を観測。気象庁は噴火警戒レベルを2から3に引き上げ(警戒が必要な範囲は火口から概ね2kmの範囲)。
- 阿蘇山周辺の降灰状況等を把握するため、8日に九州地整によるヘリ及び地上からの降灰状況調査を実施。9日に土砂災害専門家を派遣し、九州地整とともにヘリ及び地上からの降灰状況調査を実施。火口付近に火山灰の堆積は認められるものの、流域全体に厚く堆積はしておらず、降灰の影響によって土石流発生の危険性が高まった状況にはないことが確認された。
- 10/8～9の降雨による大きな土砂移動は確認されていない。(阿蘇乙姫観測点:時間最大18.5mm、総雨量73mm)



①火口周辺の降灰状況



②北側斜面の降灰状況



阿蘇山の溪流分布と火山灰の堆積範囲(①、②は左の写真の撮影方向)

土砂災害専門家を派遣した現地調査

派遣日: 10月9日(日)

派遣者: 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部

土砂災害研究室長 野呂智之

土木研究所 火山・土石流チーム

主任研究員 藤村直樹

調査内容: 上空ヘリ及び地上からの
降灰状況調査

＜土砂災害専門家による現地調査の所見＞

- ・火口より西側周辺では、厚く堆積した火山灰が認められるものの、流域全体では土砂の流出に大きな影響を与えるような火山灰の堆積は確認されなかった。
- ・流域内に整備された砂防堰堤等では、火山灰由来と考えられる灰色がかった堆積物が認められたものの、10月8日～9日の降雨による大きな土砂移動は認められなかった。



泉川流域内調査の状況
(流域全体の降灰状況を確認)



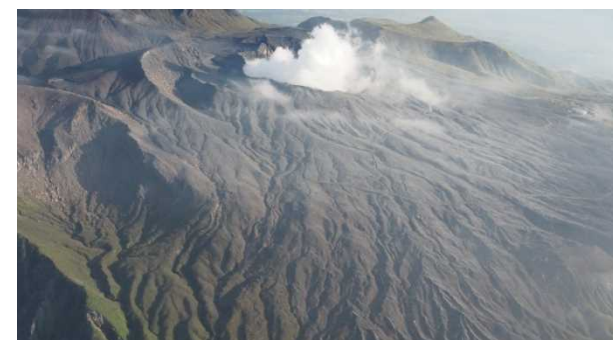
尻無川流域内の降灰状況
(斜面に明瞭な火山灰の堆積が無いことを確認)



① ヘリからの調査状況
(火口付近を除き南東斜面には降灰は見られない)



② 火口周辺の降灰状況
(火口より西側周辺の厚く堆積した降灰状況)



③ ヘリからの北東斜面の調査状況
(流域全体に厚くは堆積していない)